

り、唯假名書のうへにのみの事と思ふべきにや、廿一代和歌集の序にも、藤原俊成卿の書れし千載集の序に始めて出たり、その前には見えず、

〔千載和歌集序〕わが君世を知ろしめしてたも。ち始め給ふと名けし年○保よりも、しきのふるき跡をばむらさきの庭玉のうてな千年久しきかるべきみぎりとみがき置き給ひ。○下略

〔元號字抄〕一暦字以歷字之引文被用年號之之曆與歷同。永曆後漢書曰驅淳化於黎元永歷代而太平續漢書律曆志曰黃帝造歷歷與曆同作依之毎度歷字之時引加此文也。

〔安齋隨筆前編三〕一年號享享字享享の字紛れて書誤ることあり元享は周易に云其德剛健而文明應于天是以元享資朝文草博士考之と云文より出たれば享の字也享には非ず永享は後漢書に云能立魏々之功傳于子孫永享無窮祚と云文より出たれば享の字也享德は尙書に云世々享德萬邦作式と云文より出たれば是れも享の字也享にはあらず皆考證の文に據て正せば書誤なし考證は貝原好古が國朝年號譜に見たり、

〔徳川禁令考八〕萬延改元文字之儀に付達萬延元年四月十二日

御勘定奉行江

覺

此度改元被仰出候萬延之文字重き事之外萬万之文字いづれの方認候而も不苦旨向々江相達候間向後御切米御扶持方并御貸附金請取手形等江も万延と相認候向も可有之候間差支無之様可被取計候事、

〔茅窓漫錄下〕革命紀元○中 文字を用ふるも一字より四字まで古例法則あり方日升曰案紀元云以一字紀元者始於漢文帝後元年景帝中元年以二字紀元者始漢武帝建元元年以三字紀元者始於梁武帝中大通元年以四字紀元者始於漢哀帝大初元將元年今詳立號紀元當始於文景非武帝也見韻會要小補此邦異年號に兄弟和倭黃繩白鳳雉の三字あり又天平感寶天平寶字天平神護神